

「大すぎだよ。」(小学生)

ぼくのおじいちゃんは、80さいをこえています。いつも遊んでくれて、いつでも会えると思っていました。でも、お母さんに、「おじいちゃんもとしだからいつ会えなくなってもおかしくないんだよ」と言われて、いつもはてれくさくて言葉にしたことがなかったけど、「大すぎだよ。」と、つたえました。

「一緒に強くなろう。」(小学生)

ぼくがバスケの試合で負けて泣いている時、友だちが「一緒に強くなろう」と声をかけてくれました。その日から毎日練習して試合でも勝てるようになりました。ぼくを強くしてくれたのはその友だちです。今度はぼくが友だちを支えてあげたいです。

「まねしないであげてね。」(小学生)

ぼくは、ことばが出にくいけど、おはなしすることは大すぎです。でも中には、ぼくの話し方をわらったり、マネしたりする人がいます。そんなさみしいきもちのときに、友だちがこのことばをいってくれました。そのときぼくは、すごくうれしかったです。

「ありがとう。」(中学生)

私はクラスにあまり入れなくて、クラスにもなじめていません。でも仲の良い友だちや班の子は、いつも私を助けてくれたりサポートをしてくれます。授業にもなかなか出られてなくても教えてくれたり、iPadのロイロノートなどで送ってくれます。クラスに入っていない私でも、クラスのみんなは私を忘れず、クラスの一員だということを聞いてとっても嬉しくて、あの時の嬉しさ・優しさ・温かさは、ずっと忘れたいと思います。

「聞き上手だよね。」(高校生)

私は小さい頃から話すことが苦手で、人と会話するときには自分が話すことよりも相手の話を聞くほうが多かったです。自分的には、たくさん話ができる人のほうがうらやましかったのですが、友達の、「〇〇って聞き上手だよね。いつも聞いてくれてありがとう」という言葉によって、聞き役も相手の支えになるのなら悪くないなと思いました。

「おかえり。えらかったね。」(小学生)

近所に仲良しのおばさんがいます。いつも明るくにこにこしていて、学校から帰ってくると「おかえり。えらかったね。」と声をかけてくれます。学校で少しいやなことがあっても、いいことがあっても、この「おかえり。えらかったね。」を聞くとホッとして色々話したくなります。ある時、友達に冷たくされた時、気持ちが重たく、しずんでいたときに「今日はどうしたの？少しつかれた？」と私の変化に気付いてくれ、泣きながら話したこともありました。「うんうん、つらかったのね。」とせなかをさすってくれました。この「おかえり。えらかったね。」は私にとって魔法の言葉です。

「大事ぶくろ」(小学生)

父の日と母の日に手紙をわたしたことがあります。父と母は「一生大事にするね」と言ってくれてうれしかったです。

ある日、ひきだしの中を見たら「大事ぶくろ」と書いてあるふくろがありました。その中には、今まであげた手紙や、小さいころに作った折紙が入っていました。ずっと大事に取っておいてくれて、とってもうれしかったです。

「がんばろう。」(中学生)

私は「がんばって」よりも「がんばろう」のほうが嬉しいです。同じ言葉のように感じますが、「がんばって」はプレッシャーを感じてしまいます。「がんばろう」は一緒に頑張ってくれる安心感があります。自分も「がんばろう」と伝えていきたい。

「おいでよ。」(保護者)

うちの子は学校でしゃべること、自分から動くことができません。選択性かん黙という障がいがあります。でも、なぜかいつもこの子のまわりにはたくさんのお友達がいてくれます。みんなで遊んでいるときも、こっちおいでよ、と手をひいてつれていってくれます。そのおかげで毎日学校に楽しく行けています。最近は少しずつ笑顔が増えています。私一人でかかえていたら心配で心が潰れていたと思います。まわりのお友達、学校の先生、サポートして下さる方々に感謝です。

